

子供が安心して過ごせる教室環境づくり

- 教室環境についても、子供の実態に応じて考える視点が重要です。
- 生活や学習の見通しのもちやすさなど、子供の安心感につながるかどうかのポイントです。

(例) 注意が逸れやすい子供 → 学習する場所の刺激を少なくする
 整理整頓が苦手な子供 → どこに何を置くのか、どのように置くのかを視覚的に示す

このように、子供の実態に応じて考えることが重要なので、実態をまとめた資料等を今一度確認してみましょう。そして、以下のような視点で、子供の安心感につながる教室環境を整えます。

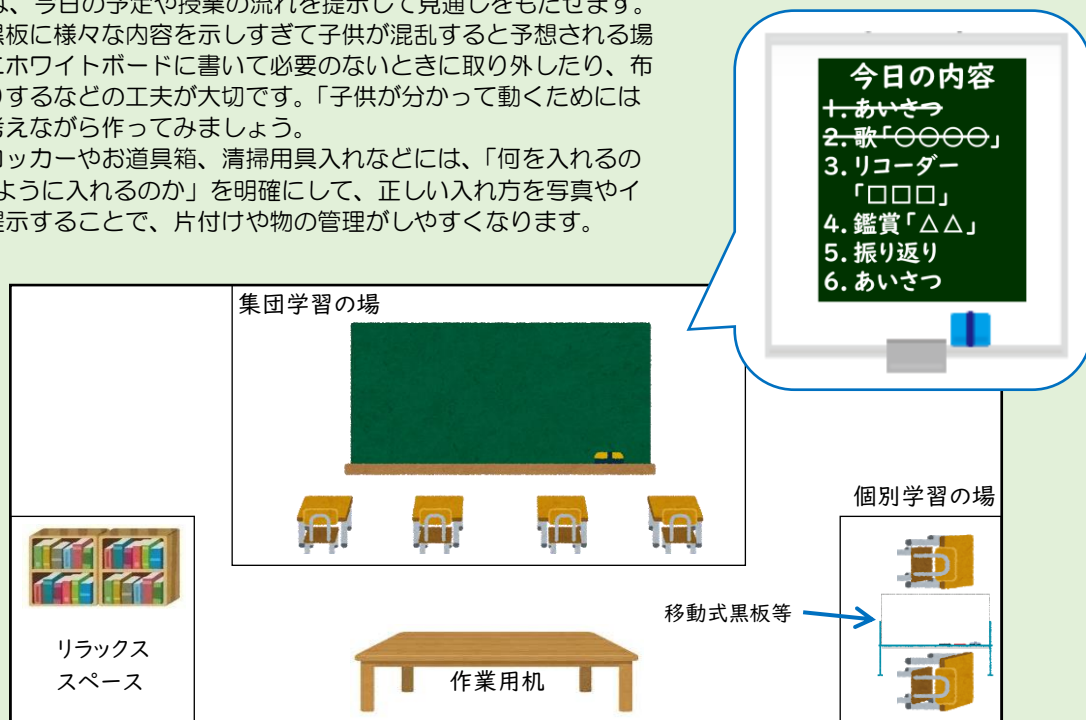
- 自分で行動できる環境
- 日課が分かる、活動の見通しをもつことができる環境
- 学習場所が分かる環境
- 規則的でまとまりのある学校生活を送ることができる環境

教室環境を整えた後も、「子供達に分かって行動できているかな?」「授業中、集中できているかな?」等、子供の様子や行動を観察して、改善していく必要があります。子供達と相談しながら「見やすい、使いやすい、安心できる」教室環境作りを心掛けたいですね。

教室環境のレイアウト例

黒板には、今日の予定や授業の流れを提示して見通しをもたせます。ただし、黒板に様々な内容を示しすぎて子供が混乱すると予想される場合は、ミニホワイトボードに書いて必要のないときに取り外したり、布を被せたりするなどの工夫が大切です。「子供が分かって動くためには…?」を考えながら作ってみましょう。

また、ロッカーやお道具箱、清掃用具入れなどには、「何を入れるのか」「どのように入れるのか」を明確にして、正しい入れ方を写真やイラストで提示することで、片付けや物の管理がしやすくなります。



【文献】阿部利彦（2017）：通常学級のユニバーサルデザインスタートダッシュ Q&A55. 東洋館出版社。
 鳥取県教育委員会東部教育局（2014）：元気の出る特別支援学級担任のための手引き（実践編）。

よく一緒に読まれている Q

Q6 「協力学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか?」